

令和5年4月27日

国際リニアコライダー計画の推進に関する決議

リニアコライダー国際研究所
建設推進議員連盟

素粒子物理学やその基盤となる加速器科学は、物質の究極的な構造と自然界の力の本質を研究する学問であるとともに、学術研究から産業応用まで広範な研究開発を支える重要な科学技術である。

また、素粒子物理学と加速器科学は、多くのノーベル賞受賞者を輩出するなど、わが国が世界を牽引してきた分野であり、今後も世界をリードしていくことが期待されている。近年、わが国の研究力低下が指摘される中、アジア初の大型国際科学技術拠点の形成となる国際リニアコライダー（ILC）計画の日本誘致は、科学技術立国を標榜する我が国の研究力向上や成長戦略に資する大きな可能性を持つ。

このような認識の下、本議員連盟は昨年10月、ILC計画の推進につながる次世代加速器技術開発を適切な国際協力の下で着実に推進すること、そのために令和5年度予算を確実に確保することなどを決議した。以降、以下のように進捗がみられる：

- 令和5年度予算では、これまでの予算を大きく上回る、先端的な加速器技術開発に係る予算が計上された。
- ILC計画の推進を図る国際組織である国際推進チーム（IDT）は、国内の関連研究者による組織である ILC ジャパン及び高エネルギー加速器研究機構（KEK）との強い連携のもと、世界中の加速器研究機関の連携によって ILC 関連技術の完成を目指すための組織である ILC テクノロジーネットワーク（ITN）の構築を着実に進めている。

- IDT は「国際有識者会議」を設立し、大型加速器をグローバル計画として実現するための道筋や責任分担の考え方などを整理し、その議論をもとに各国政府への説明、議論の場を設けることとしており、これに向けた作業も順調に進められている。

「新しい資本主義」実現に向けた成長戦略の第一の柱に科学技術政策を据える我が国にとって、素粒子物理学研究が、今後も国際的な競争力を維持・向上させていくことは極めて重要である。また、新型コロナウイルス感染症やウクライナ情勢等の国際情勢が国際的な科学技術プロジェクトへの大きな影響を与える中、実現への新たな段階を迎える上記の国際的な研究者コミュニティの活動が引き続き重要であると認識している。

本議員連盟は、体制を強化し、ILC ジャパン・KEK を両輪とする研究者コミュニティ、AAA、東北 ILC 協議会、文部科学省及び関係省庁とがより強い連携の下、国際研究者コミュニティの活動方針を今後も支持し、当該活動が ILC 計画の日本誘致実現につながるよう活動してまいる方針である。

以下決議する。

記

- 一. アジア初の大型国際科学技術拠点の形成となる国際リニアコライダー（ILC 計画）の日本誘致に向け、関係者の連携の下、活動を推進する。
- 一. ILC 計画は一国のみで実現することはできず、国際協力が不可欠であることから、政府は上記活動を推進する研究者と緊密に連携を図るとともに、関係国政府との意見交換を行うこと。
- 一. ILC 計画の推進につながる次世代加速器技術開発を適切な国際協力の下で着実に推進するとともに、そのために必要な予算を確実に確保していくこと。

以上